

ドイツ語 (初級 A) 第 10 回 人称代名詞

範囲: 教科書 S. 27-28 (CD トラック 34-35)

《今回の基本例文》

28. Wem hilft die Sekretärin? – Die Sekretärin hilft ihrem Chef. Sie hilft ihm. (CD32-3)

その (女性) 秘書は誰を手伝っているのですか? – その (女性) 秘書は彼女の (男性) 上司を手伝っています。(つまり,) 彼女は彼を手伝っています。

[人称代名詞の 3 格、(3 格目的語をとる自動詞)]

29. Wen heiratet dein Chef? – Mein Chef heiratet seine Sekretärin. Er heiratet sie. (CD33-3)

君の上司は誰と結婚するの。 – 私の上司は自分の秘書と結婚するんだよ。(つまり,) 彼は彼女と結婚するんだよ。

[人称代名詞の 4 格]

30. Gibt Hans seinem Sohn das Buch? – Ja, Hans gibt es ihm. (CD34-1)

ハンスは息子にその本をあげるのですか? – はい、彼 (ハンス) はそれを彼 (息子) にあげます。

[人称代名詞の 3 格と 4 格の位置、(人称代名詞の 3 格、人称代名詞の 4 格)]

31. Womit fährst du? Fährst du mit der U-Bahn? – Ja, ich fahre damit. (CD35-1)

君は何に乗って行くの? 地下鉄で? – うん、地下鉄で行くよ。

[前置詞と疑問代名詞の融合形、前置詞と人称代名詞の融合形]

32. Mit wem spricht er? Spricht er mit seinem Chef? – Ja, er spricht mit ihm. (CD35-2)

彼は誰と話しているのですか? 上司とですか? – はい、上司とです。

[前置詞+疑問代名詞、前置詞+人称代名詞]

授業第 9 回補足練習問題の解答

補足練習問題 1・2 (小問順ではなくアルファベット順)

熟語	意味	(英語対応)
auf <i>et</i> ⁴ . antworten	〈物の 4 格〉に返事する	
<i>jn.</i> um <i>et</i> ⁴ . bitten	〈人の 4 格〉に〈物の 4 格〉を頼む	
an <i>jn./et</i> ⁴ . denken	〈人/物の 4 格〉のことを考える	<i>think of</i>
<i>jn.</i> nach <i>et</i> ³ . fragen	〈人の 4 格〉に〈物の 3 格〉について尋ねる	
an <i>jn./et</i> ⁴ . glauben	〈人/物の 4 格〉のことを信仰する	<i>believe in</i>
für <i>et</i> ⁴ . stehen	〈物の 4 格〉を象徴する	<i>stand for</i>
über <i>et</i> ⁴ . verfügen	〈物の 4 格〉を意のままにする	
auf <i>jn./et</i> ⁴ . warten	〈人/物の 4 格〉を待つ	<i>wait for</i>

熟語	意味	(英語対応)
an <i>et</i> ³ . reich sein	〈物の 3 格〉に富んでいる	
auf <i>et</i> ⁴ . stolz sein	〈物の 4 格〉を誇っている	<i>be proud of</i>
mit <i>et</i> ³ . zufrieden sein	〈物の 3 格〉に満足している	

* 以上は、初学者が覚えておくべき「基礎熟語」と考えてもらってよい。

教科書第 6 課. 人称代名詞 (S. 26)

教科書 1 人称代名詞の変化

◇ これまで、**人称代名詞**としては 1 格のみを扱ってきた (*ich, du, er/sie/es, wir, ihr, sie, Sie*)。ここでは、人称代名詞の 3 格と 4 格も覚えよう。

◇ 敬称 2 人称では、3 格や 4 格でもやはり *Ihnen* や *Sie* のように語頭を大文字にする。

◇ 人称代名詞の 2 格は、不定冠詞類のところ学んだ所有代名詞と混同してはならない。

所有関係を表すために使うのはもっぱら所有代名詞で、人称代名詞の 2 格は基礎的なドイツ語ではあまり使わないので、現段階では覚えなくてもよい。つまり、教科書 S. 26 の表については、1 格、3 格、4 格のところだけ覚えればよい。

* 人称代名詞の 2 格は、(2 格目的語をとる動詞、2 格と結合する形容詞、) 2 格支配の前置詞 (⇒教科書 S. 24) などとともに使用される。

(例) *Statt seiner kommt Frau Müller selbst.*

彼の代わりにミュラー夫人本人が来る。

教科書 2 3 格と 4 格の位置 (S. 27)

◇ 基本的な考え方としては、既知の名詞要素を先に、未知の名詞要素をあとに置く。このため、格に関わりなく代名詞一名詞の順をとる (教科書の b)、代名詞はもちろん既知)。

* なお、定冠詞のついた (=既知の) 4 格を不定冠詞のついた (=未知の) 3 格に優先すべき、という立場もある。ゆえに、教科書の a) については、絶対的な規則というわけではない。

(例) *Inge schenkt die Uhr einem Freund.*

(4 格) (3 格)

◇ ただし、代名詞が連続する場合、(1 格) - 4 格 - 3 格の順で並べることは、ほぼ規則化している (教科書の c)。

教科書 Übung 3

1~4. すべて 3 格目的語と 4 格目的語の両方をとる (〈人の 3 格〉に 〈物の 4 格を〉 ~する) 動詞。

教科書 3 前置詞と人称代名詞・疑問代名詞の融合形

- ◇ 前置詞と人称代名詞の融合形は、
 - ・ その人称代名詞が事物を表す場合に限って使われる。
 - ・ 人称代名詞が人間を表す場合には、融合形ではなく前置詞＋人称代名詞を使用する。
- ◇ 前置詞と疑問代名詞の融合形は、
 - ・ その疑問代名詞が事物を問う was に限って使われる。
 - ・ 人間を問う疑問代名詞 wer が前置詞とともに用いられる場合には、前置詞＋wer の格変化形 (⇒教科書 S. 13) を使用し、wer の格は前置詞の格支配によって決まる。

(例) bei+wer → bei wem (誰の近くで、誰のところで)

für+wer → für wen (誰のために)

mit+wer → mit wem (誰と)

statt+wer → statt wessen (誰の代わりに)

von+wer → von wem (誰によって)

zu+wer → zu wem (誰のところに)

- ◇ まとめると、前置詞と人称代名詞・疑問代名詞の融合形は、その人称代名詞が事物を表す場合に用い、その人称代名詞が人間を表す場合には前置詞＋人称代名詞や前置詞＋wer の変化形を用いる。

(例) damit それによって

womit 何によって

⇔ mit ihm/ihr 彼/彼女と一緒に

mit wem 誰と一緒に

教科書 Übung 4

1. 移動の際の乗り物には mit を用いる (英語の with と同じ)。
- 3~4. an jn./et⁴. denken jn./et⁴. のことを考える (⇒本配付資料 S. 1)

教科書コラム nicht か kein か (S. 28)

- ◇ ドイツ語の否定表現としては nicht と kein があり、それぞれ not と no と考えてよい。
- ◇ 定冠詞、所有代名詞、指示代名詞によって特定された名詞を否定するときは nicht、不定冠詞をともなう名詞や無冠詞の名詞を否定するときは kein を使用すると考えればよい。

(例) Er leiht mir kein Buch.

彼は私に本を貸してくれない。

Er leiht mir das Buch nicht.

彼は私にその本を貸してくれない。

- ◇ ただし、無冠詞でも動詞と密接に結びついて熟語化している名詞には nicht を用いる。

(例) *Bescheid wissen* → *Ich weiß nicht Bescheid.*

私には事情がわからない。

Klavier spielen → *Er spielt nicht Klavier.*

彼はピアノを弾かない。

◇ ほか、授業ですでに学んだ範囲では、

- ・ 述語内容語としての形容詞

(例) *Der Anzug ist dunkel.* → *Der Anzug ist nicht dunkel.*

その背広は黒柄ではない。

- ・ 移動の目的地、方向を表す副詞句

(例) *Ich gehe in die Bibliothek.* → *Ich gehe nicht in die Bibliothek.*

私は図書館に行かない。

- ・ 接続詞 *als* (「～として」、英語の *as*) と結んだ名詞

(例) *Ich bin hier als Sekretär tätig.* → *Ich bin hier nicht als Sekretär tätig.*

私は秘書としては働いていない。

* *als* は前置詞ではなく接続詞であり、格支配はない。この例文の *Sekretät* は主語と同格なので 1 格になっている。

** *tätig* は形容詞で「従事している」の意。

などに対しては *nicht* を用いる。

◇ *nicht* と *kein* の使い分け (現時点で学んだもの) をまとめると、以下の通り。

nicht	定冠詞・指示代名詞・所有代名詞＋名詞
	動詞と結びついて熟語化した無冠詞の名詞
	als＋名詞
	述語内容語としての形容詞
kein	移動の目的地・方向を表す副詞句
	(上記以外の) 無冠詞の名詞
	不定冠詞＋名詞

◇ *nicht* を使用したドイツ語の否定文は、*not* を使用した英語の否定文と異なり、*do* や *does* の助動詞をともしないが、*nicht* の位置に対する複雑な規則がある。それについてはのちにあらためて扱う。 (⇒教科書 S. 54)

* 例えば、*Er leiht mir das Buch nicht.* では文末に来る *nicht* が *Ich weiß nicht Bescheid.* ではなぜ文中にあるのか、など。

連絡先など

教員のメールアドレス: token@nifty.com 教員のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>